

図書館の基本設計プロセスの風景

南相馬市立図書館計画での「対話と学びと提案」について

寺田 芳朗 ※1

早川 光彦 ※2

※1 寺田大塚小林計画同人代表/日本建築家協会登録建築家
日本図書館協会会員/日本図書館文化史研究会会員
※2 富士大学教授/南相馬市立中央図書館元副館長(立上げ担当)
岩手県旧川崎村図書館元係長(立上げ担当)/日本図書館協会委員

はじめに

南相馬市の図書館システムは、2009年12月に中央図書館開館、直後に東日本大震災被災。開館7年を経て、小中学校図書館への司書派遣や自動車図書館の巡回や避難指定解除地域図書館の再会など、成長を続けています。試練や状況の変化は計画の予測を超えるところでしたが、成長を動かしている図書館員のみなさんの原点のどこかに、図書館立ち上げの時に共に学び考えたプロセスが役立っていることを期待して、基本設計書の記録を振り返って「対話と学びと提案」のプロセスをご報告したいと思います。

1、南相馬市立中央図書館の概要と「計画と設計の対話：序章」

- 現在の南相馬図書館の活動、施設の平面図、施設の写真、
- 基本設計の協議と検討のプロセスをまとめた報告書（もくじを配布、現物を回覧）
- プロポーザル（提案競技）提案の概要。（対話の素材/たたき台としてのツール）

2、基本設計が修了した段階の「総合計画図に描く、ものこととのデザイン」

- 配置図（敷地の使い方についての合意された形/実施設計着手への目標と方針）
（この翌年度の実施設計段階で、隣地取得が動き、平場駐車場方式へ変更をして）
- 総合計画図（一階平面図/二三階平面図に書き込まれた建築と資料と活動の想定）

3、基本設計プロセスの、対話のツールとしての「設計条件カード」

- ・あいまいな将来像を明らかにする、学びと対話と合意のためのカルタ整理方式
- 例示01（開架の規模/準開架の役割とつながり。分類と統合の配架表現の配置）
- 例示02（サービスデスクの配置と職員ローテーション。少人数に可能な運営）
- 例示03（BM書庫の規模と形態/複本率の把握。裏付けとしての全域奉仕プラン）

4、プロポーザル案から基本設計案への対話と計画の工程表「プロセスチャート」

- 行政と市民の検討委員会、官民グループヒアリング、図書館との協議と研究会
（基本計画からの8項目の設計条件の見直し/これに伴う計画と設計案の変更検討）
- 4ヶ月で3案の変更を経た基本設計のプロセス（皆に見えるプロセスを公開する）

5、対話は誰とどう向き合うか、「コミュニティチャート」で3方向に対話する

- 不定型な「市民集団」の関係を知る社会地図表現（多様な主体を構造化する地図）
- 行政・市民のグループとお互いに顔の見える対話を（誰からも全体が見える地図）
- 経験値の違う図書館員全員と対話するための勉強会（共学の研究会メニュー地図）

6、竣工し開館した後も、図書館員と設計者が対話をつづけてゆくために

- ・図書館建築をつくるという目標、図書館をつくり育てるという目標を重ねること。
- ・同じ「ものごと」を、違う立場で共に考え、つくり、見守るという対話の形式。